

TOKYO MIDTOWN STYLE

東京ミッドタウンスタイル

「みらいのアイデア」を発想する
Tokyo Midtown
DESIGN TOUCH

ものづくりに込めた想い
日常に息づくクリエイション



Vol. 38
AUTUMN 2018

TOKYO MIDTOWN STYLE

Essence of Creation

vol.1

感覚を呼び覚まし高揚させる
フレグランスの誘惑



「香り。それは触れることのできない幻影のようであり、実体でもある、深みのある存在」。セルジュ・ルタンスは、自らの名を冠したフレグランスを、こう語る。クリスチャンディオールや資生堂におけるパルファムやメイクアップのクリエイションにとどまらず、映像、写真など、さまざまな分野で希有な才能を発揮してきた彼によって2000年に誕生したブランドに、今年、新ライン「コレクションノワール」が加わった。黒のラベルがミステリアスな印象を与える端正なボトルに注がれ、“ジンジャーが香る午後5時”“木のフェミニティ”“炎の洗礼”など、まるで美しい詩文や映画のタイトルを思わせる名がつけられた18香調のフレグラン

スは、その一つ一つにルタンスならではのドラマティックな世界観を凝縮。香りに触れた瞬間、無限のイマジネーションがかき立てられ、私たちを時空を超えた旅へと誘ってくれる。お気に入りの香りとともに、その先に広がる物語までを纏って、自らの個性と美意識をどんな言葉よりも雄弁に表現したい。

オードパルファム「コレクションノワール」〈右から〉“ファイブオクロックオジャンジャンブル”“フェミニテュボウ”“フルールドランジェ”“バテムデュフー”“ダチュラノワール”“ラルリジュース”（セルジュ・ルタンス）（各100ml）各21,600円／イセタンサローネ ※各香調とも、（50ml）14,040円あり。

Shop Data

ISETAN SALONE / イセタンサローネ
ガレリア1・2F ☎03-6434-7975 11:00～21:00

※記載の金額はすべて税込価格です。また、価格は諸般の事情により変更となる場合があります。

時代を経ても決して色褪せない

コム デ ギャルソンの革新的スタイル



斬新なクリエイションで世界中の人々を魅了し、
また、多くのクリエイターたちに今も影響を与え続けている
「コム デ ギャルソン」。常に時代の先をいく革新的なスタイルは、
人々の生活や人生に新しい風を吹き込み、
ファッションが持つ無限の可能性を体感させてくれる。

フロックジャケットとドレスを合体させ、
レイヤードのように見えるトロンプレイユ
的なデザインは、「コム デ ギャルソン」の
真骨頂。ジャケット302,400円 (COMME
des GARÇONS) / TRADING MUSEUM
COMME des GARÇONS

パリで発表された「コム デ ギャルソン」の
2018-19年秋冬コレクションは、アメリカ
出身の小説家・エッセイスト、スーザン・ソ
ンタグの著書『キャンピング』についてのノート
がインスピレーション源。布が幾重にも
層をなしたドレスが16体発表された。一方
「コム デ ギャルソン・オム プリュス」は、恐
竜や怪獣のようなヘッドピースを被り、遊
び心あふれるルックを披露。ホワイトカ
ラーでまとめたスタイリングも印象的だ。

ものづくりに込めた想い

Creation for Life

日常に息づくクリエイション

デザイナーや作家、職人たちが、その創造力や技術、愛情を注ぎ込んだ

“クリエイション”は、私たちの日常をドラマティックに変えてくれる。

着る・暮らす・食べるなど、さまざまな日常のシーンを彩る

上質な“クリエイション”を東京ミッドタウンで探してみた。

Photos: Teruaki Kawakami (P.5 ~ 6, 8 ~ 13) Ryuta Arakaki (P.14 ~ 15)
Styling: Hajime Suzuki (P.5 ~ 6) Yumi Ito (P.8 ~ 11, 13) Chiaki Furuta (P.14 ~ 15)
Text: Riko Obayashi (P. 5 ~ 6, 8 ~ 9)



新しいこと、強いことを求めて、
いま着たいファッションが生まれる

文・生駒芳子

ファッションの世界で、こんなにも長く、変わらぬ強度で人々を魅了し続けるブランドが、あったらどうか？　そしてコム デ ギャルソンは、もはや、ファッションやブランドといった言葉の枠を超えて、存在している。常に、新しい驚きと衝撃、想像を超える風景、何が起こっているか、瞬時には判断できない、異次元のクリエイションが、伝説を次々と自ら塗り替え

て、未知の世界へと我々を誘う。そこにはあとから必ず美しさと感動が追いついてくる。

形態の強さに反して、内に宿る世界は、極めて繊細で、時にフラジヤイル、時に凶暴、という捉えどころのない革新的な存在感を宿して、単眼的なメディアを目くらましする。

デザイナー川久保玲が、自ら欲しい服を作る試みから始まったプロジェクト



SHOP DATA

ガレリア1F
☎03-6804-6607
11:00～21:00

TRADING MUSEUM COMME des GARÇONS

トレーディング ミュージアム・コム デ ギャルソン

シャツをキャンバスに見立て、現代アートのようなモチーフが描かれた、唯一無二の存在感をもつ一枚。シャツ68,364円 (COMME des GARÇONS SHIRT)・「ナイキ」の代表モデル「コルテッツ」をベースに、厚底のフォルムに仕上げた話題のコラボレーション。スニーカー (H7.2) 56,160円 (COMME des GARÇONS)・上質なレザーにメッセージプリントがインパクトを添える大人気シリーズから最新作が登場。メッセージバッグ (H20×W27×D8) 31,320円 (COMME des GARÇONS GIRL)・メッセージウォレット大 (H11×W21×D2.5) 41,580円・中 (H11×W16×D2.5) 34,560円・小 (H9.5×W11×D1.5) 15,984円 (SHOP COMME des GARÇONS) / TRADING MUSEUM COMME des GARÇONS



影響を与え続けている。

ファッションが私たちの生活や人生のなかで教えてくれること、もたらすものとは何だろうと考える時、私はいつもコムデギャルソンを思い浮かべる。

なぜなら、そこには、圧倒的な潔さと、強さと、革新のスピリットが宿っているから。ファッションは生活や人生を生まれ変わらせる力を持っている。内面を変えたければ、外面を変えよ。まさしく、昨日までの自分を脱ぎ捨てて、新しい自分を手に入れる、人生を革新するには、ファッションが瞬間風速で最大のパワーを発揮する。

コムデギャルソンの存在は、「美しい」という形容詞が占拠していたファッションの世界に、「革新的である」「強いこと」が「かっこいい」という新たな風穴を開けた。社会の構造が根底から揺り動かされるこの21世紀、それは人生や生活を刷新させる最大のファッション・パワーとも言える。

PROFILE

2010年より、日本の伝統工芸を世界発進するプロジェクト「工芸ルネサンスWAO」の総合プロデューサーを務め、パリ、ニューヨーク、東京でファッションやデザイン、アートを切り口としたキュレーションで伝統工芸世界を紹介、小説掲載「生駒芳子が誘う」今見たいアート (P.22) も連載中。

Ron Herman

ロンハーマン

世界中を巡って 素材にこだわり抜いた 最上級のカシミヤニット

アメリカ・ロサンゼルス発のスペシャリティストア「ロンハーマン」で見つけた極上のカシミヤニット。独自に企画するオリジナルラインのなかでも「UPSTAIRS」と記されたタグが付く、より素材や仕立てにこだわったワンランク上のアイテムだ。ワンピースは、スコットランドのカシミヤの名産地、ホーイック地方でつくられたもの。イタリアで紡績された別注のカシミヤ糸を使用し、ホールガーメントにより、縫い目のない、軽くて温かい

着心地を実現。また、リラックス感漂うコンチョ付きボタンカーディガンは、世界のラグジュアリーブランドへカシミヤ糸を提供するイタリア・カリアッジ社の太番手カシミヤ糸を使用。撚りをあまり入れないことで、機械編みながらハンドニットのようになふっくらとした表情に仕上がった。デザインはごくシンプルに、それでいて素材は最上級のものを用いる。そのスタイルこそ「ロンハーマン」のクリエイションの粋といえるだろう。



空気を纏うように繊細で軽やかなハイゲージのワンピース、優しい温もりに癒やされる上品なローゲージのカーディガン。どちらも何十年と愛用したいアイテムだ。

ワンピースは写真のブルーのほか、ベージュ、ピンクも揃う。ワンピース¥140,400 アンティーク調のコンチョボタンがさりげないアクセントに。カーディガン¥118,800 / Ron Herman

SHOP DATA
ガーデンテラスB 1
☎03-6447-0561
11:00～21:00



インドメイドを駆使した独創的な作風でファンを惹きつけてやまないフランスの「ジャマン ピュエッシュ」は、1990年にパリで設立されたバッグブランド。コレクションはすべて職人の手作業でつくられ、完成するまでに多くの日数を要するものもある。数千を超えるオリジナルのスパンコールやビーズ、半貴石などを用いた装飾や、布地とパーツの複雑なカラーコンビネーション、職人技による繊細な刺繍など、オ

トクチュールのようなテクニクで表現されるバッグは、まさに身につけるアートのようなだ。

この秋冬は、カシミール地方、ネパール、チベットを結ぶヒマラヤの地から受けたインスピレーションをエレガントに仕上げたコレクションが誕生。この地方ならではの特徴的な素材や、伝統的なテクニク、神秘的なモチーフが、「ジャマン ピュエッシュ」のパリのエスプリと融合し、新しい世界をつくり上げた。



マハラジャの衣装などを手掛けるインドの最上級の職人によって、一針一針手刺繍で美しいモチーフが描き出される。



Theatre. H.P.FRANCE

テアトル アッシュ・ペー・フランス

豊かな創造力と アルチザンテクニクが生む バッグというアート

“シャングリ・ラ・ドリーム”と名付けられた幻想的なコレクションのバッグは、鮮やかな色彩と、フラワーモチーフのビーズ刺繍が何とも美しい。バッグ(H16×W17×D7) 96,120円(JAMIN PUECH) / Theatre H.P.FRANCE

SHOP DATA

ガレリア2F
☎03-5413-0626
11:00～21:00

STYLE MEETS PEOPLE

スタイル ミーツ ピープル

作家の“息”と“手”が作りあげる
有機的なフォルムが
極上のくつろぎをもたらす

上 質なくつろぎの時間をコンセプトとする「STYLE MEETS PEOPLE」が、今秋開催の「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」に向けて、オリジナルデザインのガラスペンダントランプ「SOUL」 by SMPを発表。オブジェのように空間に浮遊する有機的なフォルムは、アーティストの光井威善さんとのコラボレーションから生まれた。富山を拠点に活動する光井さんは、今、広く注目を集める若手のガラス作家。吹きガラスならではの、柔らかな曲線が醸し出す光の反射や陰

影が、このショッップのコンセプトどおりの「リラックスした心と時間」をもたらしてくれる。

吹きガラスという手法ゆえ、一つ一つ手づくりされる作品はすべて一点もの。光源には機能的な高LEDライトを採用しているが、放たれる光には不思議と人工的な冷たさがない。作家の息吹と手仕事でつくられたガラスが、シャープな輝きに温かみを与えているのだらう。あたかもその空間にずっとあったかのような、静かな存在感を放っている。

手づくりゆえに一つ一つの形が異なるだけでなく、ガラスの色によっても多彩なニュアンスが添えられる。ペンダントランプ(「SOUL」 by SMP) 各103,680円 / STYLE MEETS PEOPLE

SHOP DATA

ガレリア3F
☎03-5413-3705
11:00 ~ 21:00



溶けたガラスに息を吹き込むことでできあがる偶然の形。さらにバーナーなどで手を加えることで、空間だけでなく、そこにいる人の心まで明るくしてくれる。温もりに満ちた作品へと昇華させている。

HIDA

ヒダ

職人の技が光る
エレガントなデザインと
洗練されたフォルム



座面と背面ともに、体のラインに沿う優しいアーチと木の温もりが極上の座り心地を予感させる。椅子(右)2018年のミラノ・サローネでデビューしたアーム付きモデル。価格未定 (左)97,200円 / HIDA

SHOP DATA

ガレリア3F
☎03-5413-7637
11:00 ~ 21:00

90

年以上の歴史を有する「HIDA」は、古くから「飛騨の匠」として知られたこの地の木工職人たちが、旅人が伝えた西洋の曲げ木家具の技術に触発されて創業した家具メーカー。

日本人の多くが畳の部屋で暮らしていた時代から日本の家具文化を育み、製品の輸出などを通じて欧米の家具文化に多くを学びつつ、優れたデザインと品質で高い評価を集めてきた。

日本のものづくりを象徴するかのような「HIDA」が、ルイ・ヴィトンやブルガリなど世界的なトップブランドの商品や店舗デザインなどを手掛ける、スイスの高名なデザインスタジオ「アトリエ・オイ」とコラボレーションして生まれたのがこの Glico (ギフォイ) コレクションだ。そのデザインのインスピレーションは、自然に磨かれた滑らかな丸みのある岩石。素材には従来、家具づくりには不向きとされてきた「杉材」から、飛騨伝統の曲げ木技術を応用した技法で「杉圧縮柱目材」を開発。無垢な木の風合いを保ちつつ、シャープに揃った木目が端正な美を湛えている。圧縮と同時に曲げ加工も施すことで、体にフィットする座り心地のよさも追求したこのシリーズは、今年のミラノ・サローネ国際家具見本市でも展示され、好評を博したという。



柔らかさゆえに家具には不向きとされた杉を、加熱圧縮により強度や加工性能を向上。真っすぐな木目は端正な模様となる。

宮

川町は、祇園や先斗町と並ぶ京都五花街のひとつ。そこには舞妓・芸子さんたちをあずかるお茶屋さんを中心に歌舞謡曲や着物、建築とそれを彩る美術工芸、料理に酒やお茶、そしてさまざまなしきたりといった日本文化の粋が集まり、唯一無二の世界をなしている。その都の雅を、料理を通して東京で感じられる店のひとつが「宮川町 水簾」である。京都の本店の味をできるだけそのまま伝えたいと言うのは、総料理長の島谷宗宏さん。しかし、そのままの味を伝えるためには、京都と東京の水や食材の差を埋める工夫が必要となる。和食の命ともいえる出汁を、いつもの味に仕上げるために、季節ごとに微妙な差をつけて引く。鰻も十匹いたら、全てが同じ身質ではない。個体差を補い、同じ仕上がりにもっていく。京都の味を提供するための技術が料理の奥にある。

本物の味を守る一方で、グローバルな街・六本木にあることを意識し、伝統的な日本料理に新しさをアレンジする工夫も忘れない。たとえば小さな重箱を独自に詠え、本格的な料理を多品目、あたかも本物の重箱のように盛りこむプレゼンテーションは、粋を感じてもらうもてなしに。味と見た目で喜んでもらい、日本料理を印象付ける。それは本質を守りつつ驚きを提供する、今風の遊び心ともいえるだろう。



この店オリジナルの小さな抹茶茶碗、重箱、鍋。料理の見せ方に新味を出し、見た目でも料理を楽しめるようにと考案された。

宮川町 水簾

みやがわちょう すいれん

京都の味を守りながら
インターナショナルな六本木で
現代の“粋”を追求



本来は秋に脂がのり旬を迎えるという鰻。鰻は仕入れの都合で入荷しない場合もあるので必ず予約を。(ランチ:あしらいコース7,020円、ディナー全コース10,584円〜 ※すべてサービス料別)

SHOP DATA

ガーデンテラス3F
☎03-5413-1881
月〜土11:00〜15:00(L.O.14:00)
17:00〜24:00(L.O.22:00)
日・祝11:00〜15:00(L.O.14:00)
17:00〜23:00(L.O.21:00)

pâtisserie Sadaharu AOKI paris

パティスリー・サダハル・アオキ・パリ

細長いフォルムと重層的な味わいに
クリエイションを感じて



洋

の東西を問わず、芸術品とも小宇宙とも例えられてきた「菓子」。人々を幸せな気持ちにするだけでなく、季節を伝えることもまた重要な役割であった。

室町時代後期に創業した「とらや」の秋は、栗を抜きにしては語れない。裏漉しした栗と白餡を混ぜてそぼろにし、求肥で包んだ餡にまぶした栗粉餅は、大正7年の菓子見本帳にも描かれている伝統の銘菓。栗鹿の子や栗蒸羊羹

羹といった定番の栗菓子とともに、日本人と栗との長く深い関わりを感じさせてくれる季節の味わいだ。

もちろん洋菓子も旬を大切にしている。「パティスリー・サダハル・アオキ・パリ」でも、カリッとしたヘーゼルナッツの食感が楽しいノワゼットショコラや、秋の果実・洋梨の香りをキャラメルのはろ苦さが際立たせるボワールキャラメルなど、秋ならではの繊細なガトーたちが季節を伝えてくれている。

秋らしい優しい色合いも食欲をそそる。(写真上)(上)ボワールキャラメル830円・(下)ノワゼットショコラ860円／pâtisserie Sadaharu AOKI paris(11月末までの販売(予定)、売り切れの場合あり) (写真下)(左)栗蒸羊羹584円・(中)栗鹿の子584円・(右)栗粉餅584円 / とらや(10月31日までの販売、売り切れの場合あり)

とらや

日本人が大好きな栗を
ヴァリエーション豊かな姿形で

SHOP DATA

pâtisserie Sadaharu
AOKI paris
カレリアB1
☎03-5413-7112
11:00〜21:00

とらや
カレリアB1
☎03-5413-3541
11:00〜21:00



杜氏とソムリエのコラボで
生まれた「ライスワイン」

SAKE SHOP 福光屋

サケショップ フクミツヤ

1625年創業の金沢の老舗酒蔵・福光屋。米、水、酵母にまでこだわった純米酒は、海外からも注目の存在だ。伝統を踏まえて生み出されたライスワインは、日本酒ファンの幅を広げる一品。ITAYA RICE WINE (左) (300ml) 756円 (右) (720ml) 1,620円

SHOP DATA
ガレリアB1 ☎03-6804-5341 11:00～21:00

有田焼の技法を踏襲し モダンに変身した器



試行錯誤の末、誕生した「麟 (Lin)」。

THE COVER NIPPON

ジカバー・ニッポン

日本のものづくりにフォーカスするジカバー・ニッポン。有田焼の新しい流れを作る「金照堂」のオリジナルブランド「麟 (Lin)」の磁器は、ほかにはないメタリックな色合い。独自の技法で実現した美しい輝きが特徴だ。片口6,480円 カップ3,780円

SHOP DATA
ガレリア3F ☎03-5413-0658 11:00～21:00



素肌に着ても心地よい 工夫が凝らされた逸品

Cruciani

クルチアーニ

紡績、染色、縫製を自社内で行うクルチアーニ。素肌に着る想定で作られたカシミアシルクのニットは、極細の糸を使用し、目の詰まった編みで仕立てたもの。引っかかりが少なく、経年劣化しにくいのも魅力。ニット各95,040円

SHOP DATA
ガレリア1F ☎03-5413-0651 11:00～21:00



ZANELATO

ザネラート

伝統と新しいデザインへの追求がモットーのザネラートのレザー製品。タンナーと呼ばれる革加工職人をはじめ、スペシャリストたちの手を経て完成するバッグはタイムレスな美しさを放つ。「POSTINA」の新作バッグ(H19×W29×D15) 138,240円

SHOP DATA
ガレリア2F ☎03-6447-4830 11:00～21:00



厳格な技術の継承をもって、全工程をイタリア国内で製造。細部に至るまで精巧に作られる。

イタリアのエレガンスを感じさせる美しいフォルム

“こだわり”が凝縮された 愛すべき名品たち



職人から職人へと 受け継がれる 高度な技術が凝縮



バイアス生地で作られるネクタイの伸びを防ぐために、裏側に施された赤い糸。これを引くことで生地を縮ませ、休ませる。

ISAIA Napoli

イザイア ナポリ

1957年、イタリアのナポリで創業。Made in Napoliを掲げ、自社工房で生産するこだわりを貫くイザイア。サルトと呼ばれる職人が脈々と継承してきた技術が、ネクタイ1本にもたっぷり詰まっている。ネクタイ各32,400円

SHOP DATA
プラザ1F
☎03-6447-0624
11:00～21:00

PELLICO

ペリーコ

熟練職人によってハンドメイドで作り上げられるイタリア、ペリーコの靴。エレガントなデザイン、美しい発色、そして最上級の履き心地は、上質な素材と受け継がれてきた技術によって生み出される。パンプス69,120円 ※直営店限定

SHOP DATA
ガレリア2F
☎03-5413-7768
11:00～21:00



洗練のシルエット
卓越した技術が可能にする

BEAMS HOUSE

ビームス ハウス

ビームスとスコットランドで最も長い歴史をもつファブリックメーカー、ジョンストンズのコラボレーションで生まれたカシミア100%の大判ストール。極上の肌触りはもちろん、発色の良さも見逃せない。(190×70) 66,960円

SHOP DATA
ガレリア1F
☎03-5413-7690
11:00～21:00



絶妙な色合いと 柔らかな手触りが魅力

STRASBURGO

ストラスブルゴ

イタリア屈指のカミチェリア(シャツメーカー)、バルバのシャツ。袖付け、ガゼット、カンヌキ、ボタン付けなどの伝統的なハンドメイドの技術をベースに、パターンを毎シーズンミリ単位で調整。トレンドを巧みに取り入れている。シャツ32,400円

SHOP DATA
ガレリア1F ☎03-3403-0777 11:00～21:00



ナポリの工房で、部位ごとに専門の職人が一枚一枚手掛けて作製。丁寧な作業で温もりと着心地の良さを実現。



クラシックな手法に
モダンな感性が融合

「みらいのアイデア」を発想する Tokyo Midtown DESIGN TOUCH

秋恒例のデザインイベント「DESIGN TOUCH」の今年のテーマは「みらいのアイデア」。
ULTRA PUBLIC PROJECTがプロデュースする、まだ誰も体験したことのない
みらいの公園「PARK PACK」ほか、さまざまなイベントで未来のアイデアを体感しよう！

Photos : Jan Buus (P.16・18) / Text : Arata Sakai (P.16 ~ 18) / Naoko Aono (P.19 ~ 21)



みらいの公園「PARK PACK」を中心で担う5人。左から齋藤精一さん（Rhizomatiks Architecture）、山岸政樹さん（プロペラ・アンド・カンパニー）、橋本哲也さん（ディー・ワイ・オー）、西牟田悠さん（電通ライブ）、伊藤雅人さん（日建設計）。

CHAPTER:1

ULTRA PUBLIC PROJECTが語る 「みらいの公園とは？」

「今までの公園の概念を離れて、公園でこういうことができれば
楽しいということと一緒に考える場所にしたい」と語る
ULTRA PUBLIC PROJECTの5人。「PARK PACK」は、
みらいの公園を利用者と一緒に考え、つくりあげる試みだ。

都市部に点在するさまざまな公園。入り口にはたいがい看板が掲げられている。野球やサッカーなどの球技禁止、犬の散歩やペットの持ち込み禁止、自転車の乗り入れや撮影の禁止……。なかには「大声禁止」というものもある。「一体何のための、誰のための公園なのだろう？ 多くの公園からにぎわいが失われている。今の公園は禁止の連続です。しか

しそれほど規制する必要があるのか。もしかしたら、別の形で、制御することが、みんながハッピーになれる公園をつくることにつながるのではないかと、ULTRA PUBLIC PROJECT（ウルトラパブリックプロジェクト）の中心メンバーで、「PARK PACK」の企画を引っ張る齋藤さん。同じ立場の西牟田さんも「誰にとっても開かれていて、ちゃんとした居場所になるような公園の在り方にチャレンジしたい」と語る。「おそらくそれはひとつの形だけで成立し、完結するようなものではなく、いろいろな人が訪れて、そこで新たに生まれ続けるものだろうと思います」

それにしても、今は公園に来る人とのコミュニケーションが決定的に不足していると指摘するのは、実際の公園づくりを手掛ける日建設計の伊藤さんだ。「運営側が手を掛けないと、どうしても禁止事項が多くなるんです。例えば近所の一人から『うるさい』と苦情が出たら、すぐに音を出すのは禁止という看板を立ててそれで終わりにしてしまう。しかし、苦情を言ってきた人ときちゃんとコミュニケーションを取って、実はこういう楽しいことがあるからやっているんですと説明したり、あなたもこういう催しに参加しませんかという方向に持っていけば、音を出すことを一律に禁じる必要はないかもしれません。訪れる人の想いをくみ上げながら、みんなが楽しくなるものを考えていく」。『みらいの公園』では、そういうことに挑戦したいと思いました」

集う人の想いを結び アクティビティを創造する

街の主役が人であるように、公園の主役もそこに集まる人であるはずだ。しかし多くの人が、禁止と規制のもとで静かに公園を使っている。公園に来ている人、公園に入ろうと思って躊躇している人の声を集めれば、今までと違う使い方が発見できると伊藤さんは語る。「ばくも子供を連れて公園に行くときがありま

たいと思っています人や歌いたいと思っている人がいるとわかれば、そこにライブスペースが生まれる」そのパッケージが来ると何かが始まる。その時間に公園にいる人のやりたいことか想いを受け止めながら七変化する「玉手箱」のようなものを用意したいと思いました」（齋藤さん）。それが「PARK PACK」になった。



公園をつくりだすのはハードではない。 そこで活動する人、つまりソフトだ

あるべき公園の姿を探り、提唱しそして実装する ULTRA PUBLIC PROJECT。ハードの変化だけが公園をつくりだすのではない。公園をつくるのはそこで活動する人であり、ソフトの力。ULTRA PUBLIC PROJECT は、テクノロジーとエンターテインメントというソフトウェアの視点でみらいの公園を考え、形にしてい

イラスト：オカヤイツミ

■ CHAPTER:2 ■

デザインを五感で楽しむ さまざまなイベントが開催！

「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」では
「みらいのアイデア」と出合える、さまざまな
アートやデザインのイベントが開催される。
若手からベテランまで多彩なクリエイターや企業が
それぞれに提案する新しいアイデアに注目だ。



we+(ウィープラス)／林登志也と安藤北斗により
2013年に設立されたコンテンポラリーデザイン
スタジオ。新素材やテクノロジーを積極的に
採用する実験的なアプローチでミラノ・サロー
ネなど海外でも活躍している。

風と光を感じる“未来の庭”が登場！

Swell

ミッドタウン・ガーデンに“未来の庭”「Swell」が登場。風
と光を感じられる軽やかな庭だ。ミラーをまとったメッ
シュが風を受けて空気の流れが見える。メッシュに反射する
光も変化して、生き物が呼吸しているような心地よい空間
に。ものの見方や素材の使い方を変えることで、日常の風
景に新しい視点をもたらす「みらいのアイデア」を提案する。

期間：10月19日(金)～11月4日(日)
時間：11:00～21:00 ※雨天・荒天中止
場所：ミッドタウン・ガーデン



「Kitty AI」(作／Pinar Yoldas)“子猫の姿のAIが政見放送をする2039年”をテーマに、
映像作品が放映される。

アートを通じて新しい“働き方”を考える

未来の学校 powered by アルスエレクトロニカ

「未来の学校」は東京ミッドタウンが世界的なクリエイティ
ブ機関、アルスエレクトロニカと協働し、参加者と未来の社
会について考えるイベント。3回目の今回のテーマは「みら
いの働き方」。人生100年時代を迎え、テクノロジーの進化
によってAI(人工知能)が仕事を奪うかもしれないといった
ニュースが話題になっている今、場所や時間、職業にとらわ
れない働き方もますます広がっていくと思われる。アート作
品を通じて選択の幅が広がる「みらいの働き方」を考える。

期間：10月26日(金)～11月4日(日)
場所：東京ミッドタウン館内モニター、ガレリアB1

■ アルスエレクトロニカとは ■

オーストリアのリンツ市を拠点に「先端テクノロジーが
もたらす新しい創造性と社会の未来像」を提案している
世界的なクリエイティブ機関。「アルスエレクトロニカ・
フェスティバル」を毎年開催。



みらいの公園にチャレンジするULTRA PUBLIC PROJECTのメンバー。さまざまなツール
とテクノロジーを駆使して、公園の新たな可能性を考える実験的な取り組みを進める。

パッケージを開けば何かが始まる。
そこにいる人が主役になって
新たな公園をつくりあげていく

「PARK PACK」は、芝生広場で展
開する「みらいの公園」のために用意
された一辺約2.5mのキューブだ。
設計・施工を担当するのはプロペラ・
アンド・カンパニーの山岸さん。「親
しみの持てる形を考えてキューブに
しました。キューブなら全方位的な
見せ方・使い方ができるし、サイコ

ロのようなかわいらしさもあります。
中にはプロジェクターやモニター、
照明機材に加えて、強度が高く簡単
に持ち運べる樹脂製の段ボールでつ
くったモジュールが入っていて、こ
れは組み合わせによって椅子にもな
るシェイブルにもなります。キュー
ブは公園を訪れた人の声を聞きなが
ら、さまざまなアクティビティやにぎ
わいをつくりだすものになります」
みらいの公園の在り方を、実装し
たさまざまなテクノロジーやツール
を駆使して提案していくのがこの
キューブだ。センサーなどを使って、
そこにいる人の属性や動きを解析し
たり、ファシリテーターによるさま
ざまなマッチングによって、人が主
役の公園をつくっていく。

あるときはそこが美術館になり、
あるときはスポーツフィールドにな
る。ライブ会場になり夜は映画館に
なる。マーケットやワークプレイス
になるときもあるかもしれない。10
月19日から11月4日までのDESIGN
TOUCHの期間中、移動式公園
「PARK PACK」は、まだ誰も経験し
たことのない公園のみらいの形を示
してくれるはずだ。

みらいの公園が生まれる場所に
東京ミッドタウンはふさわしい

ULTRA PUBLIC PROJECTのメ
ンバーが、最後「PARK PACK」に
寄せる想いを語ってくれた。「公園
とはこれだと結論を出す場所ではな
く、そもそも公園ってどういう場所
だろうと考えたり、自分のお気に入り
の公園の形を見つけてもらえたら
うれしい」(西牟田さん)。「企業に
対しても物品やコンテンツの提供と
いう形での参加を募集します。企業
もみらいの公園に関わってほしい」
(橋本さん)。「ふと通りすがりにお
もしろそうだなと見てもらいうのも
いいと思う。そう感じてもらえるた

INFORMATION

新しい公園の形を提案する

PARK PACK by ULTRA PUBLIC PROJECT

今年のDESIGN TOUCHのテーマは、「みらいのアイデア」。このテーマのもと、ULTRA PUBLIC
PROJECTが「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」のメインイベント「PARK PACK」をプロデュ
ースする。組み立てるとテーブルや椅子になるツールなどが収納された“動く公園”「PARK PACK」
を広げると、芝生広場にさまざまなアクティビティやにぎわいが生まれる。イベントの期間を通し
て、“みらいの公園”について考え、公園の可能性をいくつも提示していく実験的な取り組みだ。

期間：10月19日(金)～11月4日(日)
※雨天・荒天中止
場所：ミッドタウン・ガーデン、芝生広場
主催：東京ミッドタウン
制作：ULTRA PUBLIC PROJECT



芝生広場に登場する「PARK
PACK」。収納されている多彩な
ツールを駆使して、集う人と共
にさまざまなアクティビティを
つくります。

■ ULTRA PUBLIC PROJECT

Rhizomatiks Architecture(ライゾマティクスアーキテクチャ)、
ティー・ワイ・オー、電通ライブの3社のメンバーで立ち上げたユニッ
ト。本企画では新たに日建設計、プロペラ・アンド・カンパニーが加
わる。“We are the city.”の旗印のもと、ハードの開発ではなくさま
ざまなソフトウェアの力で人が主役の街づくりを考えて提案する。



スマートフォンの形の紙が色鮮やかな空間を作る。

DOCOMO DESIGN EXHIBITION

COLORS

使う人を想い、理想に少しでも近づけるために試行錯誤を繰り返しているドコモのプロダクトデザイン。今年は、色をテーマにスマートフォン型の紙を使ったインスタレーションを展開し、色鮮やかな空間表現でドコモの色への想いを体感できる。多彩な色は、「違いがあるから世界は美しい」というコンセプトが形になったもの。一度目にすれば毎日触れているスマートフォンへの見方が変わるかもしれない。

期間：10月19日(金)～28日(日)
時間：11:00～21:00
場所：アトリウム
料金：無料
主催：株式会社NTTドコモ



Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2018

10/19 Fri - 11/4 Sun

“デザインを五感で楽しむ”をコンセプトに開かれるイベント。12回目の今年は「みらいのアイデア」をテーマに国内外の第一線で活躍するデザイナーのプロジェクトが集結する。「みらい」を生み出すクリエイターのトークセッション「DESIGN TOUCH CONFERENCE by 東京ミッドタウン・デザイン部」も開催。デザインの魅力や可能性をリアルに体感したい。

世界最大級のデザインイベントの熱気が六本木に

Salone in Roppongi

毎年春、ミラノで開催される「ミラノ・サローネ」は最新のデザインが集う世界最大級のデザインイベント。世界中からデザイン関係者が集まり、新作の発表やインスタレーションが行われる。そこで活躍する日本人アーティストに焦点を当てて、六本木で作品を展示するのが「Salone in Roppongi」。ミラノ・サローネでも注目を集めた建築家の家所亮二をフィーチャリングアーティストに迎え、「芝生のある空間」にデザインの楽しさをプラスしたプリミティブな世界を作り出す。

期間：10月19日(金)～11月4日(日)
※雨天・荒天中止
場所：ミッドタウン・ガーデン
主催：Salone in Roppongi 実行委員会



カワイならではの美しい音色が奏でられる、透明に輝くグランドピアノ。

クリスタルに輝くピアノの音色を聴きに行こう！

河合楽器製作所 クリスタルグランドピアノ展示

美しい音色のピアノづくりで定評のある河合楽器製作所。その創立90周年を記念して製作されたクリスタルグランドピアノが、東京ミッドタウンに登場。1世紀近くにわたって培ってきたピアノづくりの技術と最新のテクノロジー、独自の設計構造とプロポーションによって生まれた透明に輝くピアノを展示・販売する。そのスタイリッシュなフォルムからは同社ならではの表現力豊かな音色が生み出され、アートとテクノロジーが融合したピアノが「音楽を奏でる道具」という枠を超えて作りだす、心地よい環境を提供する。

期間：10月19日(金)～11月4日(日)
時間：11:00～21:00
場所：ガレリアB1
料金：無料



2017年度グッドデザイン大賞 カジュアル管楽器「Venova」



2017年度グッドデザイン金賞
右上／スマートプロダクト「Xperia Touch」
左上／クルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」
左／タンブラー「フィーノ」

新しい日本の感性に触れよう！

Tokyo Midtown Award 2018

「Tokyo Midtown Award」は「JAPAN VALUE（新しい日本の価値・感性・才能）」を創造・結集し、世界に発信する活動の一環として、次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘、応援するプロジェクト。11回目の今回はアート、デザインの2部門のコンペで選ばれた16の優秀作品を展示、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」期間中に受賞作品の発表と授賞式を行う。観客が好きな作品に投票できる「オーディエンス賞」も実施。デザインコンペの受賞作品は終了後も約1年間、東京ミッドタウン館内に展示される。

結果発表・授賞式：10月19日(金)16:30～17:30
展示期間：10月19日(金)～11月11日(日)
展示場所：プラザB1



今年のグッドデザインをいち早くチェック

GOOD DESIGN EXHIBITION 2018

「Gマーク」でおなじみのグッドデザイン賞。この展覧会では2018年10月に発表される最新の受賞デザイン1,300件以上をいち早く紹介し、今年のデザインオブザイヤーとなる「グッドデザイン大賞」を発表する。期間中は第一線で活躍するデザイナーのトークイベントが行われるほか、ロングセラーデザインに贈られる「ロングライフデザイン賞」やアジア・アセアン地域のユニークなデザインの展示も。受賞作品を購入できるスペシャルショップもオープン、私たちの暮らしをもっと楽しくしてくれる「グッドデザイン」を体感できる。

期間：10月31日(水)～11月4日(日)
場所：東京ミッドタウン各所
(総合受付は東京ミッドタウン・ホール)
時間：11:00～20:00 ※最終日は18:00まで
料金：1,000円(大学生以下無料)
※一部無料エリアあり
主催：公益財団法人日本デザイン振興会
※東京ミッドタウンのフーカー、カード会員、ワークスタイリング会員の方は無料で入場いただけます。各種カードやアプリ画面を入口にてご提示ください。

※期間中、東京ミッドタウン内対象店舗では、ご来場者特典を実施します。



東京はしおきめぐり

「Tokyo Midtown Award 2017」デザインコンペ優秀賞受賞作品「東京はしおき」は、日本橋、吾妻橋、永代橋、勝間(かちどき)橋、レインボーブリッジの東京の5つの「橋」をモチーフにした個性豊かなしおき(作/本山 拓人、不破 健男 4,320円)。9月の発売を記念して、10月19日～11月4日の期間、東京ミッドタウン内の「宮川町 水簾」「平田牧場」「お肉の専門店 スギモト」「とらや」「茅乃舎」での食事の際に使用できる。また、対象店舗にてご飲食し、ご応募いただいた方のうち5名様に抽選でプレゼント。



2017年度グランプリ
「東京クラッカー」(作/加藤圭織)

生駒芳子が誘う
今見たいアート
TEXT BY YOSHIKO IKOMA



上／国宝「五大尊像のうち不動明王」鎌倉時代、醍醐寺蔵、画像提供：奈良国立博物館、撮影：佐々木香輔 左／重要文化財「如意輪観音坐像」平安時代、醍醐寺蔵、画像提供：奈良国立博物館、撮影：森村欣司

京都・醍醐寺 ―真言密教の宇宙― 「サントリー美術館」



重要文化財「三宝院障壁画 柳草花図(表書院上段之間)」安土桃山〜江戸時代、醍醐寺蔵



国宝「薬師如来坐像」平安時代、醍醐寺蔵、画像提供：奈良国立博物館、撮影：佐々木香輔



醍醐寺といえば、世界遺産に登録され、数々の国宝・重要文化財を蔵する真言宗醍醐派の総本山。豊臣秀吉が花見の宴を催した寺としても知られている存在である。

その醍醐寺から、数々の出会うべき仏像、絵画がやってくる。空海直系の弟子である聖宝が、874年に開闢した醍醐寺は、当時伝えられた新しい教えである真言密教が人々の注目を集め、天皇が帰依するほどの熱狂的な支持を得るなかで創建された。現世利益を掲げた真言密教は、

加持祈禱を盛んに行い、願いを叶えてくれる教えとして時の権力者たちの心をくすぐったという。修行と研究と実践の場。外国から最先端の文化が届き、時のVIPが交流する。醍醐寺は、祈りと芸術と政治が交差するまさに時代を牽引する場だった。そこで生まれる仏像、絵画は、密教の宇宙観と匠の技から生み出される最高峰のクリエイション。

その筆頭が、創建後間もなくして創作された「如意輪観音坐像」。複数の腕が人々の願いや救いの気持ちを描く優美なボディシル

エットに癒やされる。「薬師如来坐像」は、醍醐天皇が帰依した際に作られたもので、どんと腰を据えた薬師如来のお姿からは、心が鎮められ、集中するパワーが得られそう。

背後に炎が燃える「五大尊像」には、まさに邪気払いしてもらえそうな勢いと気配を感じる。醍醐寺の宝が集結する本展は、まさしくパワースポットそのもの。思わず手を合わせて拝みながら美しい仏像や仏画を愛でる――そんな豊かな芸術鑑賞のひとときを楽しみたい。

DATA

サントリー美術館
京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―

2018年9月19日(水)〜11月11日(日)
サントリー美術館 ☎03-3479-8600
休館日:火曜日(ただし11月6日は18時まで開館)
開館時間:10:00〜18:00
※金・土および9月23日、10月7日は20:00まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで。
入館料:一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
※20名様以上の団体は100円割引
展覧会公式サイト: <http://daigoji.exhn.jp/>
※作品保護のため会期中展示替あり



生駒芳子
Yoshiko Ikoma

marie claire編集長を務めたのち、2008年ファッションジャーナリストとして独立。ファッション、アートからエシカル、クール・ジャパン、伝統工芸の発信など、多方面で活躍中。

空間をデザインする

カラフルに、シックに 日本の作家によるアートを壁面に

プライベートな空間のインテリアを考えると、意外に見落としがちなのが壁面。大きなスペースを占めながらあまり気に留められていない。その存在感を生かして、インテリアの仕上げの引き締め役として、アートを飾りたい。

アートといっても、美術館で鑑賞するような作品ではなく、気軽に手に入れられる作家ものが、現在では数多く存在している。東京ミッドタウンのショップには、各店の目利きがキュレーションしたモダンな作品がさまざまに並ぶ。たとえば絶妙な構図と独特の色使いが特徴の田上允克の油絵。絵画の世界とは無縁、29歳で上京し、偶然入ったアトリエで絵画の魅力にとりつかれたという彼が、以来40年以上、1日も休まず描き続けているという作品には、力強く不思議な魅力をもったものが多い。柳田有希子は、チタン板に異なる電圧を加え、化学反応によってさまざまな色彩を引き出す作品を制作。目には見えない心象風景を作品のなかに表現しているといい、見る者の心に優しく訴えかけてくる。また、時計やフックなど、作家のものであっても、日常に使える機能性をもつ作品からも目が離せない。

肩肘張らずに楽しめるこうした作品を上手に取り入れれば、生活空間のアクセントとして日々の暮らしに潤いをもたらしてくれるはずだ。



チタニウムに電圧を与え、化学反応によってさまざまな表情を引き出す柳田有希子の作品は、抽象画や印象派の風景画のよう。左上から時計回りに「Dreamy」(23×30cm) 102,600円、「one day」(18.7×18.2cm) 86,400円、「Untitled」(18.5×18.7cm) 86,400円、「ある日の記憶」(37.5cm角) 162,000円／STYLE MEETS PEOPLE



上／富山県・高岡に工房を構える金属作家の畠山耕治による、青銅の表情がまるで月のような「掛け時計」大(直径約63cm) 194,400円／WISE-WISE tools
左／平均して年間2,000枚以上描くという田上允克(たがみ・まさかつ)の作品は、力強い線と大胆な色使いが魅力。左から「2018_07061」203,040円、「2017_10235」198,720円(※それぞれ81×56.5cm、フレーム代込)／IDÉE SHOP



DATA

IDÉE SHOP／ガレリア3F
☎03-5413-3455
TIME & STYLE MIDTOWN／ガレリア3F
☎03-5413-3501
HIDA／ガレリア3F／☎03-5413-7637
STYLE MEETS PEOPLE／ガレリア3F
☎03-5413-3705
WISE・WISE tools／ガレリア3F
☎03-5647-8355



黒田美津子
Mitsuko Kuroda

インテリアスタイリスト、スタイルディレクター。黒田美津子事務所／Laboratory主宰。「Hanako」(マガジンハウス)創刊メンバーとして雑誌記者に。現在は広告、住宅、イベント、商業施設などの空間インテリアを手がける。



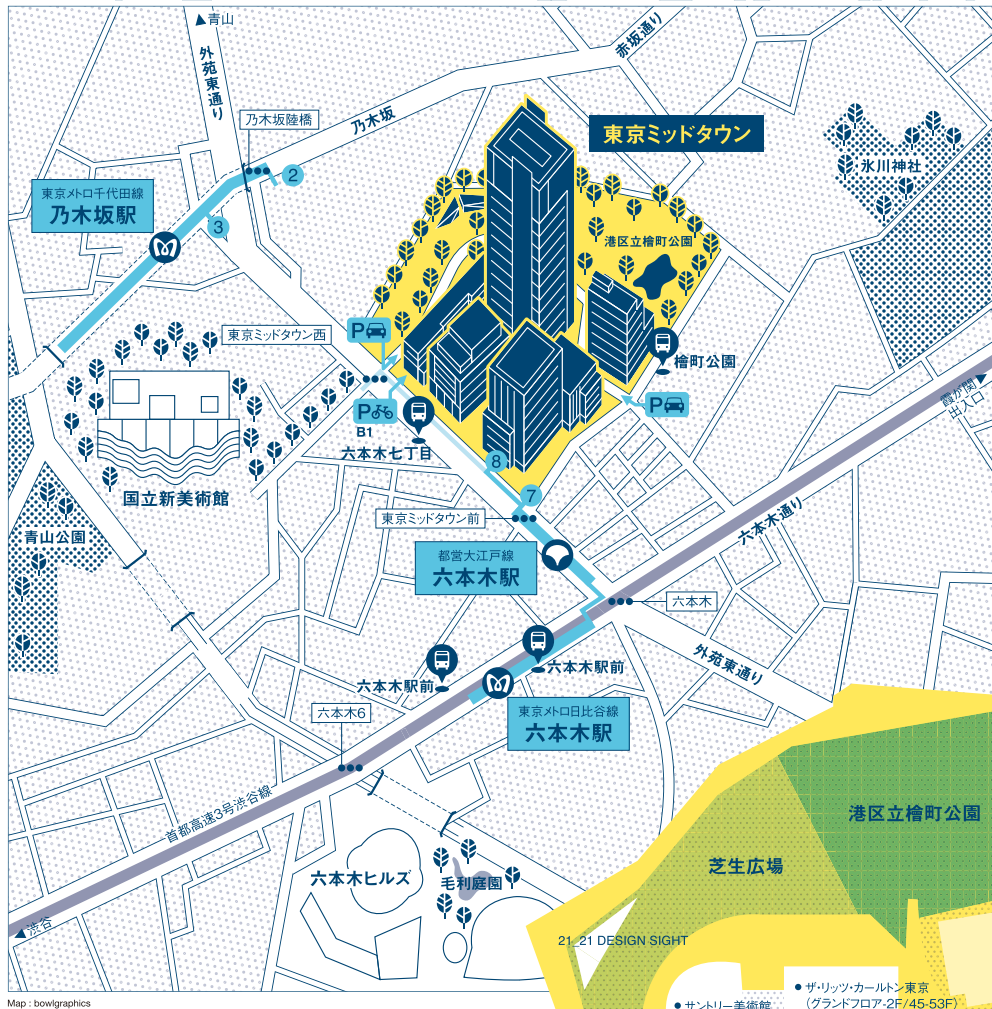
左／和紙を用いた好地匠(こうち・たくみ)の作品「をち水」(72.7×60.6cm) 200,000円／TIME & STYLE MIDTOWN
右／長野で「アトリエ灯」として活躍の場を広げる造形作家の貝山伊文紀による、枝の美しさを生かしたけやきのフック。32,400円／HIDA



黒田美津子が出合った 注目のデザイン

TEXT BY MITSUKO KURODA

Access to TOKYO MIDTOWN



交通機関のアクセス

地下鉄をご利用の場合

都営地下鉄大江戸線「六本木駅」8番出口と直結
東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約3分
東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」1番出口より徒歩約10分

バスをご利用の場合

都01「六本木駅前」下車徒歩約2分
ちいばす「六本木七丁目」・「榎町公園」下車徒歩約1分



東京ミッドタウン敷地内図

COVER INFORMATION

Photo: Hironobu Maeda (STIJL)
Styling: MAFUMI

パンプス 162,000 円 (MANOLO BLAHNIK) / ISETAN SALONE 切子グラス 5,940 円 / WISE・WISE tools シルバー・デミタスカップ & ソーサー 12,528 円、シルバー・長皿 11,880 円、シルバー・丸皿 8,640 円、黒・台皿 4,860 円 / TIME & STYLE MIDTOWN 黒×白ボトルの香水 (100ml) 54,324 円 (ボンド・ナンバーナイン ソーホー オードパルファム) / Davidoff of Geneva / Salon des Parfums 万年筆 432,000 円 / ファーバーカステル 炭の利休・もみじ 2,160 円、ポストカード (6枚セット) 1,944 円 / STYLE MEETS PEOPLE ネックレス 105,840 円 (LARA BOHINC) / Theatre H.P.FRANCE バッグ (H13 × W17.5 × D9cm) 286,200 円 / Valextra

STAFF

Publisher: Mitsui Fudosan Co., Ltd.
Tokyo Midtown Management Co., Ltd.
Editorial: Hearst Fujingaho Co., Ltd. Content Marketing
Kazuhiro Nonaka
Nonoko Hata
Art direction: Takahito Noguchi
Design: Dynamite Brothers Syndicate

イベントやショップの案内、最新トピックスなど、
お客様に役立つ情報をお届けします。

✉ メールマガジン
http://www.tokyo-midtown.com/jp/mail/

📘 公式 Facebook ページ
東京ミッドタウン / TOKYO MIDTOWN

【お問い合わせ】 東京ミッドタウン・コールセンター
☎ 03-3475-3100 (受付時間 10:00 ~ 21:00)

5 IDÉE SHOP

フルーティで華やかな香りで
秋の夜長をゆったりと

イタリア発のホームフレグランスブ
ランド「ドットール・ウラニエス」か
ら秋冬にぴったりのアイテムが登場。
ブランドの最高級ライン「ロッシ・ノー
ビレ」はワインを思わせる香りとデザ
インで、プレゼントにも最適。(750ml)
37,800 円 (セット価格)
●ガレリア3F ☎ 03-5413-3455

6 bamford

心安らぐ香りが魅力の
ブースターオイル

洗顔後、スキンケアの前になじませ、美
容液の角質層への浸透を助けるブー
スターとして使う「ライフフェイシャ
ルオイル」。乾燥によるダメージが気
になるとき、またトラブルがちな肌を
元気にするマッサージオイルとして
もおすすめ。(30ml) 10,800 円
●ガレリア2F ☎ 03-5413-4250

7 shiro HOME

バスつきがちな髪を
しっとりつややかに

秋冬の髪の乾燥には「shiro HOME」の
「オリエンタルシリーズ」を。ノンシ
リコンのシャンプーと髪一本一本の
表面をコートし、ダメージを受けにく
い髪へ導くトリートメントをセット
で。シャンプー (240ml) 3,024 円、
トリートメント (200g) 3,456 円
●ガレリア3F ☎ 03-3403-4646



Best Picks

TOKYO MIDTOWN STYLE / AUTUMN 2018

深まる秋におすすめの注目アイテム

1 uka

自分にぴったりの
上品な赤が見つかる

トータルビューティーサロン「uka」
から登場のネイルカラー「uka red
study one」は、真紅から深みのある
ものまで、微妙に色みの違う赤が6色
ラインナップされたシリーズ。日本人
の手肌を美しく見せるトーンが揃う。
(各10ml) 各2,376 円
●ガレリア2F ☎ 03-5413-7236

2 THANN

乾燥しがちな目元を潤す
優秀アイセラム

ナチュラルスキンケアブランド
「THANN」の目元用美容クリームには、
気温が低くなるとカサつきがちな肌
の水分バランスをサポートし、ハリ
のある肌へと導く働きが。「THANN」
らしいさわやかな香りも気分を癒や
してくれる。(15g) 6,372 円
●ガレリア2F ☎ 03-3403-5105

3 TENERITA

「'ala Lehua」とのコラボ
限定の香りでハンドケアを

厳選した上質な素材を使ったナチュ
ラル志向の商品を提案する「'ala
Lehua」が「TENERITA」のためだけの
スペシャルな香り「Flow」のハンド&
ネイルクリームをリリース。天然由来成
分のみで乳化し、角質層への浸透力に
優れているのも特徴。(50g) 1,620 円
●ガレリア3F ☎ 03-6447-0181

4 Aēsop

デイリーに活躍する
ビタミンリッチな美容液

自然派志向の女性はもちろん、美意識
の高い男性にも人気のスキンケアア
ブランド「Aēsop」。ほとんどの肌タイ
プに適しているという「フェイシャル
エッセンス60」はごく軽い感触で、
潤いを満たしながら肌をやさしく整
えてくれる。(60ml) 11,772 円
●ガレリア2F ☎ 03-6804-6628

芸術と食 秋の道楽を味わい尽くす



江戸名所図屏風(部分) 東京美術館所蔵

洋食で空腹を満腹



Photo by Robert Campbell

食

の秋に芸術の秋。よく耳にするがどちらもわたくしの大切な道楽であり、甲乙つけがたい。今年の夏だけは風鈴の涼やかな音色で凌げるような季節ではなかったし、「暑い」という一言を唱えながら長い時間を過ごしていたような気がする。

ようやく心地よい風が吹き、「残暑」の峠もいつしか越えて秋の気持ちよい日々の真っ直中にある。目で物を見て心で喜びを味わいたいという感覚器官が活き活きと作動し始めると、美術に触れなくなる。

都心を散歩するついでに、美術館に立ち寄って、『江戸名所図屏風』と都市の華やき」という展覧会を観ることにした(※会期終了)。江戸が東京になってから一五〇年が経過した今年、自分が立っている土地が三七〇年も前にどんな形をしていた、当時アートのとしてどのように表現されていたのか知りたい。

わたくしの伺った時は、それほど混んでいるわけでもなく、観に集まった人々はそれぞれのガラスの前で釘付けにされたように足を止め、シンとしている。

聖堂のように静寂で清浄な空気が漂っている。

天井がそれほど高くもなく、暗めな展示スペースに足を踏み入れてみると、すべて細密な絵を描いた屏風と巻物に、掛け軸が連なっている。

八曲一雙の屏風が目に見え込んでくる。流れるように描かれた金雲から



ロバート キャンベル
Robert Campbell

ニューヨーク市出身の日本文学研究者。江戸から明治時代の日本文学が専門で、特に19世紀の都市空間と人の心に強い関心を寄せている。また、文芸ジャンルを超えて、日本の文化、メディア、思想などにも造詣が深い。テレビでMCやニュース・コメンテーターなどを務める一方、新聞や雑誌の連載、書評、ラジオ番組出演など、さまざまなメディアで活躍中。愛猫の名はタ吉。

静かで重厚な光を放っている。これが、展示の主人公である「江戸名所図屏風」(重要文化財)。ドローンを飛ばして上空数百メートルから江戸の街を映したような視界で描かれている。明暦の大火(一六五七年)以前、生まれて間もない江戸という都市空間が失われる前の姿を捉えている。そう思うと、わたしはゾクツとする。右から左へと、あらゆるジェンダーと年齢と階層の人々がひしめき合い、垂直に立てられている屏風からまさにこぼれ落ちようとしている。右隻には約一〇〇〇人、左隻には約一二〇〇人の人物が思い思いの服装とジェスチャーで賑々しく生動しているのを、いつまでも眺めていたい気持ちもよく分かる。

この屏風は、江戸が生まれてから膨れ上がり、一度火事で失ってしまった姿を捉えている。幻となった江戸城の天守閣付近から吉原のお座敷の中まで、人々は音を立てるように景気よく平和で豊かな都市空間を満喫している。

二時間かけて、やっと左隻の端までたどり着いた。五時の「閉館の時間ですよ」という音声アナウンスも聞きそびれて、ゴイサギのようにじっとギャラリーに立ち続けていた。見ぬ江戸の夢に浸っていたのである。やがて館を出て、しばらく歩き、古くからある洋食屋で晩ご飯をいただくことにした。秋は芸術で長くて短い旅をしたあとに、旨いものを食するに如くはないと、空を見上げながら店に入っていた。